

消化器内科後期研修プログラム

1. プログラムの目的と特徴

消化器内科領域全般にわたり幅広い知識、技術を習得する。上下部消化管疾患、肝疾患、膵胆道系疾患を中心にその基礎的知識、診察診断、治療法の基本を身につけるとともに各疾患の病態生理を理解する。特に緊急を要する疾患に対する手技（消化管出血に対する止血処置、敗血症を伴う肝胆道系疾患に対する処置）を身につける。

また、当施設は日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会の認定指導施設であり、消化器病学会および内視鏡学会専門医の受験資格を取得する。

2. 研修内容および到達目標

1年次：内科全般の疾患を担当し、内科医として必要な消化器疾患の病態生理、検査法および治療法に関する知識を得る。

- ① 指導医のもとで腹部超音波検査、上部消化管内視鏡検査が施行できる。
- ② 指導医のもとで上部消化管造影検査、注腸検査の施行および読影ができる。
- ③ 指導医のもとで各種治療手技の助手を務め、手順を理解し、術前後の対応を学ぶ。
- ④ 指導医のもとで、患者さん・家族へインフォームドコンセントができる。
- ⑤ 初診外来・救急外来を指導医と行なう。
- ⑥ 指導医のもと症例報告の演者として積極的に学会に参加し発表を行う。

2年次：主に消化器系疾患を担当し、専門医として必要な消化器系疾患の病態生理、検査法および治療法に関する知識を得ると共に、消化器疾患の治療に必須である下記の検査を習得する。

- ① 患者さんの症状・理学的所見から、適正な検査をオーダーし、EBM/ガイドラインを理解して、治療を行なう。
- ② 検査の目的・方法・適応・合併症について、患者さん・家族へインフォームドコンセントができる。
- ③ 上部消化管内視鏡検査・腹部超音波検査が施行出来る。
- ④ 上部消化管造影検査、注腸検査の施行および読影ができる。
- ⑤ 指導医のもと下部消化管内視鏡検査が施行できる。
- ⑥ 2年次後半より指導医のもとで、ERCP や内視鏡的止血術・EMR ができる。
- ⑦ 癌化学療法を適切に計画し、安全に施行できる。
- ⑧ 消化器内科外来を行なう。
- ⑨ 初期研修医や1年目後期研修医の指導ができる。

3年次：主に、消化器系疾患を担当し、専門医として消化器疾患の治療に必須である下記の治療手技を習得する。臨床研究、基礎研究を立案し、その成果を学会発表し、論文にて公表する。

また、希望があれば大学病院での先進医療に接しその手技を習得する。

- ① ERCPや内視鏡的止血術・EMRができる。
- ② 指導医のもとで、ESD や胆道系治療（ENBD, EST, Stent 挿入など）、超音波ガイド下検査（腫瘍生検）・治療（PTCD、PTBD、PTGBD、HCC ラジオ波治療）ができる。
- ③ 消化器救急や癌の診断・治療方針が決定できる。
- ④ 初期研修医や1/2年目後期研修医の指導ができる。
- ⑤ 臨床研究の立案ができ、その成果を研究会や学会で発表できる。
- ⑥ 大学病院での先進的な医療に接し、その手技を習得する。（希望者のみ）

3. 習得すべき検査・治療手技

〈検査手技〉

1. 上部・下部消化管造影検査、上部・下部消化管内視鏡検査
2. ERCP・PTCなどの膵、胆道系の検査
3. 腹部超音波検査、造影超音波検査
4. 腹部血管造影
5. 肝生検、超音波ガイド下肝腫瘍生検

〈治療手技〉

1. 胃管・イレウスチューブ挿入
2. 内視鏡的止血術、内視鏡的粘膜切除術、消化管拡張術
3. 内視鏡的胃瘻造設術
4. 食道静脈瘤硬化療法および結紮術
5. 胆道系治療（ENBD, EST, PTCD、PTGBD、Stent 挿入など）
6. ラジオ波焼灼療法、エタノール注入療法

4. 資格取得の目標

日本内科学会認定内科医・内科学会総合内科専門医

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

5. 学会、研究会への発表および参加

1年間に1回以上の学会や研究会での発表を目標とする。

6. 他の内科領域の研修に関して

消化器内科を修めるにあたって他の内科領域の診断・治療に関する知識を得ることは必須である。消化器内科研修と並行し、一般内科診療・救急当直業務に従事することで他の内科領域の知識を深めることを目標とする。